

## <令和4年12月定例記者会見>

### 1 開催日時

令和4年12月8日（木）午後1時30分から午後2時まで

### 2 場所

滝沢市役所 庁議室

### 3 来庁した報道機関

岩手ケーブルテレビジョン、河北新報社、盛岡タイムス社、滝沢ちゃんねる、読売新聞社、朝日新聞社、岩手日報社

### 4 発表事項

#### (1) 滝沢はるかの販売について（経済産業部観光物産課）

今年、12月6日（火）午前10時から、一般社団法人滝沢市観光物産協会のネットショップ「チャグまるしえ滝沢」で販売しました。お陰様をもちまして、ネットショップでの販売分については、発売日当日に全て完売いたしました。

なお、本市ふるさと納税の返礼品での取扱いのほか、明日12月9日（金）午前9時からビッグルーフ滝沢の滝沢キッチン産直コーナーにおいて、「そばかすはるか」を数量限定で販売致します。

この「滝沢はるか」は、一般社団法人滝沢市観光物産協会において、滝沢市内で収穫されたりんご『はるか』を、糖度計・蜜入りセンサーで計測し、どこよりも厳しい基準で選別した高品質のものだけを『～黄金の濃蜜りんご～滝沢はるか』として販売しております。

また現在、市内産直では今回選果した「はるか」を始め、多数の美味しいりんごを好評販売中です。是非、この時期旬を迎えている滝沢市産りんごをお買い求めいただければと思います。

#### (2) 滝沢市特別表彰 表彰式の挙行について（企画総務部企画政策課）

滝沢市では、スポーツ、文化、産業等の分野で活躍された方々に対して、滝沢市表彰条例に基づき特別表彰を行っております。今回表彰いたしますのは、スポーツ・文化分野で市の栄誉を著しく高められた5名となります。

一人目は、南一輝（みなみかずき）さんです。6月19日に行われた第76回体操の全日本種目別選手権男子床運動において優勝、4連覇を達成されました。

二人目は、本田歩夢（ほんだあゆむ）さんです。8月13日に行われた令和4年度全国高校総合体育大会の新体操男子個人で優勝されました。

三人目は、國府田駿（こふだしゅん）さんです。7月23日、24日に行われたJOCジュニアオリンピックカップ第30回全国中学生なぎなた大会において3位に入賞されました。

四人目は、石川光（いしかわひかる）さんです。令和3年12月26日に行われた第3回全農杯全日本小学生カーリング選手権大会において優勝されました。

五人目は、外久保穂（そとくぼみずほ）さんです。7月17日に行われた令和4年度郷土民謡民舞青少年みんよう全国大会において、民謡チャンピオンの部で優勝されました。

滝沢市特別表彰 表彰式につきましては、令和4年12月17日（土）午後2時から、

滝沢総合公園体育館にて挙げる運びとなっています。なお、当日は、本表彰式のほか「滝沢市体育協会表彰式」等も併せて挙げるることとなっております。是非とも一緒に取材にお越しいただければと思います。

#### 5 市発表案件について記者からの当日質問

記者：そばかすはるかは、8,298 個中何%ですか。

市長：そばかすはるかは 8.8%です。滝沢はるかなど厳選されたものは合わせて約 10%になります。一番大事なことは、生産者の方々も難しい天候の中、昨年春先の霜でやられた悔しさを跳ね返すように、気持ちを込めて生産することができたことであり、生産者の方々の努力と喜びもたくさんあるのではないかと考えています。

記者：市長の前にある輪切りのものはプレミアム滝沢はるかですか。

市長：そばかすはるかです。

記者：チャグまるしえ滝沢で販売されたはるかの総数と産直で販売される総数はどのくらいですか。

(一社) 観光物産協会事務局長：チャグまるしえ滝沢での販売は個数限定であり、厳選したはるかの全量ではありませんが完売となりました。残りは行き先が決まっています。

記者：チャグまるしえ滝沢での販売は何セットでしたか。

(一社) 観光物産協会事務局長：20 セットでした。産直での販売は 5 セットを予定していて、早い者勝ちとなります。

記者：チャグまるしえ滝沢で販売されたプレミアム滝沢はるか、滝沢はるか、そばかすはるかをすべて合わせて 20 セットですか。

(一社) 観光物産協会事務局長：プレミアム滝沢はるかが 13 セット、滝沢はるかが 30 セット、そばかすはるかが 30 セットです。

記者：合わせて 73 セットが完売ということですか。

(一社) 観光物産協会事務局長：そうです。プレミアム滝沢はるか 13 セット×4 玉、滝沢はるか 30 セット×4 玉、そばかすはるか 30 セット×3 玉が完売となりました。

記者：9 日からのそばかすはるかの販売はどのくらいですか。

(一社) 観光物産協会事務局長：3 玉入りを 5 セット販売します。

記者：市内の滝沢はるかとして生産された個数が 8,298 個ですか。

(一社) 観光物産協会事務局長：当協会で選果した数が 8,298 個です。農家によってははるかを各産直で販売する場合もあり、この数は市内で生産された全量ではありません。各産直でプレミアム滝沢はるかなどのような美味しいリンゴも通常料金でお買い求めいただけることもあります。

記者：選果されて基準を満たし滝沢はるかなどのブランドとなったものが 8,298 個ですか。

(一社) 観光物産協会事務局長：8,298 個の中からブランド化されたものが、先ほど市長が話した個数になります。

記者：例年と比べて売れ行きはどうですか。

(一社) 観光物産協会事務局長：多く取れるときはそばかすはるかだけで 1,000 個になります。今年は去年よりは良いですが、700 個強でした。特に今年が良かったというわけではありません。

記者：例年より少ないくらいで、それもあって早く売れたということですか。

(一社) 観光物産協会事務局長：そうです。2019年の頃に近いです。今年は収穫前に雨が降ってそれを吸い上げてしまったため、糖度が足りないものが多くありました。当協会の基準が厳しいため、糖度 15 度台は多くありましたが、落とさせていただきました。糖度 15 度以上のものも産直などで販売されていますので、召し上がっていただければと思います。

記者：市長か経済産業部長に伺います。滝沢はるかがブランディングされたのが平成 24 年ということで、市長の所信表明でも自然を活かした産業振興、農産物という話もあった中、こういった滝沢はるかも続いてきたものですが、これからさらにどのように市内農産物のブランディングに力を込めていきたいか展望があったら教えてください。

市長：リンゴについては、木になるものですから、毎年樹高体勢や枝振りなど農家の皆さんは一生懸命考えながら育てています。この後木も大きくなり、土に張る根の大きさも、枝振りも変わっていきます。人の技術の成長と併せて木も一緒に育っていくということですから、またさらに美味しいリンゴになると思っています。去年のように霜が降りるということもあるかもしれませんが、天候勝負、そして農家の皆さんの積み重ねた技術の上に、来年はもっと美味しいリンゴになると思っています。まずは、生産者の皆さん一人一人の笑顔が輝くようにということと、そしてこれからは、例えばこの人のリンゴがナンバーワンだというように、毎年いろいろな産直で技術の研鑽をしながら、リンゴの表彰などもやっていますので、滝沢はるかだけでなく、フジや王林など他品種も一緒に楽しんでもらいたいと思っています。農家の皆さんのうれしそうな顔、先日も表彰式に顔を出しましたが、皆が競い合って自信を持って作っている姿というのは素晴らしいものがありますので、そういったところをしっかりとこれからアピールしていけたらと思っています。

記者：非常に厳しく厳選しているという話があり、基準をクリアしなかったものは産直などでもお買い求めできるということですが、どこで販売されることになりますか。

(一社) 観光物産協会事務局長：そのまま農家にお返しし、農家が各販売所で売っています。

## 6 その他記者からの当日質問

記者：最優先課題で盛岡赤十字病院について、挨拶回りも含めてということでしたが、その後の進捗状況について教えてください。

市長：先日盛岡赤十字病院へ挨拶に行っていました。1 回目でしたのでお互いに顔合わせということになりました。今後、しっかりとどういった方向になるか協議していきます。12 月会議もあり、所信表明や代表質問、一般質問の答弁検討、来客対応などで、まだまだ挨拶回りで歩かなければなりません、そこまでできておりません。まずは来週の議会が終われば、またさらにいろいろなところに足を向け、ご理解をしていただけるよう歩いてまいりたいと思っています。

記者：最初の挨拶の中で滝沢へ誘致を目指す方向性はお伝えになりましたか。

市長：短い時間の挨拶で終わる予定でしたが、こちらの思いが強く長い話となりました。その思いはしっかりと届いていると思っています。大きな面積を有する病院を誘致することになるため、土地利用計画や道路など越えなければならない課題はあります。年月をかけて準備をして迎えたいという思いを伝えて来ました。

記者：盛岡赤十字病院について、市長選の時から重点の課題としてありましたが、一方で県政の方では、少なくとも達増知事は移転の話は聞いていないという答弁もあり、そのあたりで県政との間で認識の違いがあるという印象を受けました。今後、市長としてはどのように進めていきたいと考えていますか。

市長：私が県議のときに指摘して問い詰めた部分もありました。しかし、まずは準備ということで、焦らずしっかり前に進めていくために何が必要かということをお悩みながら、これまでも様々な機会で県の医師会などに話してきたところです。市議時代からこのことには取り組んでまいりましたので、簡単に考えて動いてきた話ではありません。スタートの部分で私が考えていたこと、現在思っていること、そして将来何を作りたいかというところを県に話しながら理解を頂いて、こちらに誘致したいと考えています。これからの県内の医療提供体制には、越えなければならない課題がたくさんあります。産婦人科だけでなく、ほかにもいろいろな課題があるということをお知らせしながら、課題解決に向けて準備できているということをお伝え、理解してもらいたいと思います。

記者：県に対しては理解を求めたいということですが、面会などして進めていく時期は決まっていますか。

市長：面会の申し入れはしていますので、そのお答え待ちです。

記者：市の課題と自分の思いと現場の間で違う部分があり、ひとつずつ結果を出していきたいという話があったが、それは主に病院の移転のことですか。

市長：工業団地の件など、その進め方で新たな視点を頂いたと思っていました。あとは子育て環境の充実という部分で、さまざまな課題がたくさんあり、簡単にはいかないということと、意見調整で済むことなど、お金だけでなく互いに歩み寄れば解決できる課題も見えてきました。そういう点で、私の思っていた感覚と違うなということでしたが、しっかりと対話しながら、一緒に考えていきたいと思っています。

記者：先日、来年開かれる知事選でいわて県民クラブの千葉絢子氏が立候補の意向を固めたという報道が出ていて、県議の頃から付き合いはあったと思いますが、応援や支援に回るといった考えは現時点でありますか。

市長：すべての候補者が出揃ったわけではないため、誰を応援するかという話ではないと思っています。経過を見ながらこれからの課題等を考えたいと思っていますが、一番はしっかりと皆さんに選挙に行って投票をしていただきたいということが課題だと思っています。

記者：今回の滝沢市長選の投票率について何か受け止めがありますか。

市長：投票率が低かったことはショックでした。その部分で思うところはありますが、だからこそ選挙については、どのような選挙であっても、私の考えをお伝えしながら、市民の皆さんが投票行動に移るようにしていきたいと思っています。